

## 大学での学びと未来型医療

最近、名誉教授 T 先生と学生を囲んで歓談する機会がありました。その席で T 先生がしみじみと、医学は人を理解する学問である、これほど魅力的な勉強はないと、学生に仰いました。喜寿をこえられた T 先生が解剖学から感覚器の生理学、そして臨床の課題を熱心に語るお言葉、そして医学の未来への展望は、学生のみならず私も教員にとっても大きな刺激となりました。

例えば、がんを考えてみます。私が学生の頃は、手術は拡大主義で機能温存を重視することはなく、薬剤の副作用は効果の裏返しで避けられないこととされていました。ところが医学の進歩により、治療は大きく変化しました。治療と機能温存を両立させることが様々ながんで可能となっていますし、がんの種類によっては副作用の少ない分子標的薬が大きな効果をあげています。免疫を活性化する抗体医薬が、がん治療を革新しつつあることもニュースにもなっています。逆に免疫を抑制する抗体医薬は、関節リウマチなど自己免疫疾患の治療を大きく変えました。いずれも科学の進展の果実です。一方、臓器がんや脳腫瘍など、未だ十分な治療ができない疾患も多く残っています。頻度が少ないために病態の解明が進んでいない疾患も多くあります。また、糖尿病などよくみられる生活習慣病の治療についても、まだまだ進歩が求められています。

東北大学は昨年 6 月末に法律の下、東京大学、京都大学とともに指定国立大学となりました。指定国立大学はこれまでにない取り組みにより日本の教育・学術を先導することを目指しています。東北大学では、材料科学や災害科学などに加え、未来型医療の基礎研究と開発に力を入れ、斬新な診断・治療・予防を実現していくこととなりました。

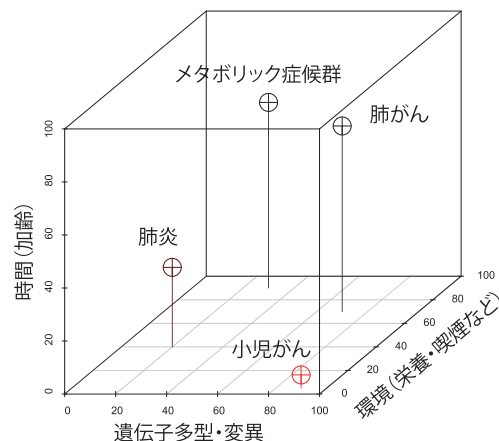
東北大学が目指す未来型医療は、個人個人の違い、すなわち、ゲノム（遺伝情報）の違い、生活習慣や環境の違いに立脚して、疾患の発症を事前に予測・予防し、発症した場合には個人毎により適切な治療を選択できる医療です。ゲノムには膨大な数の個人個人の違いがありますが、そのどれが、どの疾患に関わるのか、ほとんど理解できていません。がんなどでは、生活していく中で新たに細胞のゲノムに入る変化（変異）が発症に関わります。また、多くの病気はゲノムの

東北大学医学部長・医学系研究科長

五十嵐 和彦



違いだけで生じるわけではなく、ゲノムと生活習慣や環境との相互作用の結果として生じると考えられます。この相互作用とは何なのか、意外に思われるかもしれませんが、ほとんど理解されていません。さらには、がんや生活習慣病をはじめとする様々な病気には、加齢に伴う生体の老化が誘因となることはほぼ間違いありませんが、「老化とは何か」、このような基本的なことですら理解できていないのです。ゲノムの個人ごとの違いや変異、環境、加齢などがそれぞれの程度発症に影響しているのか、その寄与具合も病気によって大きく異なると思われます（図）。



病気の発症に影響する因子とその寄与のイメージを示してみました。あくまで仮想のものであり、実際の研究成果を示すものではありません。

未来型医療では、病院での診療だけではなく、広く地域社会のインフラの整備や改革も必要になります。生活習慣を収集分析する技術、そして予防につなげる技術。病気や事故、そして老化で失われた機能を代替する技術など、イノベーションを必要とする課題はとて多いのです。

学生諸君は一つ一つの科目を精一杯勉強していることと思いますが、その先や周辺には医学と社会の様々な課題が山積していることもぜひ考えてほしいと思っています。そのような視点に立てたとき、主体的で楽しい学問が始まるでしょう。学生諸君がどのようなことを考えているか、ぜひ皆の夢を聞いて頂ければと思います。

## 宮城県医学生修学資金制度について



総合地域医療教育支援部 石井 正

地域や診療科による医師偏在・医師不足を解消することを目的とした国の「緊急医師確保対策」により、平成20年度より医学部の入学定員は、2016年度に開設した東北医科薬科大学医学部（100名）、平成2017年度に開設した国際医療福祉大学医学部（140名）を含み、平成19年度の7,625名から平成30年度は9,419名と、1,794名増員されてきました。これに伴い、国の政策として医師国家試験に合格した後、一定期間大学や各都道府県が指定する医療機関で医師として勤務することを出願時の要件としたいわゆる「地域枠」入試制度を各大学は設置しました。東北大学は入試制度と連動せず、定員そのものを2008年度の100名から段階的に増員（2018年度以降135名）し、一方入学後に宮城県医学生修学資金（宮城県医師育成機構所掌）貸与者を募集する、いわゆる「みなし地域枠」制度を採用しています。

この宮城県医学生修学資金制度には「東北大学枠」と「一般枠」の2種類があります。「東北大学枠」は、東北大学医学部医学科生を対象とし、3年生から6年生まで4年間毎月10万円を貸し付け、卒業後8年間のうちに4年間を宮城県知事指定医療機関（≡宮城県内の仙台以外の公的医療施設）に勤務すれば、償還免除となる（つまり合計480万円を返さなくてよい）、というものです。この義務履行期間のうち、東北大学勤務（初期研修、専門研修、大学院、など）のような勤務形態でも可能）も2年間を限度として認められており、日本で最も緩やかな償還免除条件であると思われます。

### ●東北大学枠

対象：2020年4月において3年次に在籍している学生  
≡30年度入学の医学科3年生

- 2名の連帯保証人が必要
- 出身地や家族の収入制限なし

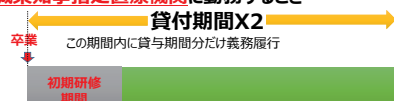
#### ● 3-6年生までの4年間

■ 休学、停学、留年時：貸付休止

#### ● 月10万円貸し付け

### 返還免除条件

- 卒業後貸付期間の2倍の期間内に、貸付期間に相当する期間を宮城県知事指定医療機関に勤務すること



「一般枠」は、東北大学だけでなく全国の医学部生を対象とし、1年生から6年生まで、何年生からでも応募可能な制度です。無論東北大学医学部医学科生も応募可能です。貸与月額は20万円と東北大学枠の倍額です。償還免除条件は、1年生または2年生から貸与が開始された場合は、卒業後貸付期間の2倍の期間内に、貸付期間に相当する期間を宮城県知事指定医療機関に勤務すること、3～6年生から貸与が開始された場合は、卒後初期臨床研修2年科を終えた卒後3年目から、卒

業後貸付期間の2倍の期間内に、貸付期間に相当する期間を宮城県知事指定医療機関に勤務すること、となっています。

例えば、2年生から卒業まで5年間貸与を受けた場合、卒業後10年間のうち5年間指定医療機関に勤務すれば、貸与総額1200万円は県に返さなくていいわけです。一般枠には東北大学2年間勤務特典はありませんが、貸与月額が倍額ですからこちらもお得です。なお、両制度とも、出身地やご家庭の収入は問いません。また、貸付貸与者が義務履行する施設については、医師のキャリア形成等を考慮し知事が個別に指定することになっていますが、東北大学と協議して原案を作成することになっており、卒業後、宮城県で働きたい、東北大学に残りたい方にとってはとてもいい制度であると思います。「東北大学枠」「一般枠」とも、宮城県医師育成機構が応募者と面接後、貸与が決定されます。募集枠より応募者が多い場合は面接で選考されます。

### ●一般枠

対象：全国の大学医学部または医科系大学の医学生

- 2名の連帯保証人が必要
- 出身地や家族の収入制限なし
- 宮城県出身でなくてもよい

#### ● 貸付決定した年の4月から大学卒業の月まで

- 最大6年間
- 休学、停学、留年時：貸付休止

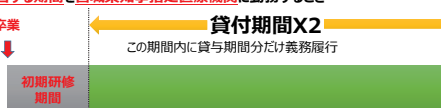
#### ● 月20万円貸し付け

### 返還免除条件

- 大学1、2年次に貸付が決定した場合  
卒業後貸付期間の2倍の期間内に、貸付期間に相当する期間を宮城県知事指定医療機関に勤務すること



- 大学3～6年次に貸付が決定した場合  
卒業後初期臨床研修終了後から数えて、貸付期間の2倍の期間内に、貸付期間に相当する期間を宮城県知事指定医療機関に勤務すること



今年度の募集（東北大学33名、一般枠15名）はすでに終了しましたが、来年度も募集する見込みですので、宮城県の地域医療の発展のためにもご検討いただければ幸いです。

詳細につきましては、東北大学病院総合地域医療教育支援部までお問い合わせください。

### ●東北大学病院総合地域医療教育支援部

[http://www.hosp.tohoku.ac.jp/departments/d3207\\_2/](http://www.hosp.tohoku.ac.jp/departments/d3207_2/)



# 初期研修における東北大学病院の新たな取り組み

東北大学病院卒後研修センター長

東北大学病院卒後研修センター専任教員

中澤 徹  
高橋 淑郎



東北大学医学部の保護者の皆様におかれましては、日頃より多大なご支援を頂き大変ありがとうございます。この度は東北大学卒後研修における最近の状況と、ご父兄の皆様には是非ご協力いただきたいことがあり文章を投稿させていただきました。

伝統的に東北大学卒業生は東北大学関連の市中病院で初期研修を行い、その後に入局というパターンが主流でした。そのため東北大学の関連病院には全国的にも有名で、初期研修病院として人気の高い研修病院も数多く存在します。一方、そのような人気病院は競争率が高くフルマッチであることから、関東や関西出身の東北大学卒業生だけでなく、宮城県出身の県外医学部卒業生も激戦である病院を避けて宮城県外、東北地方外の病院で初期研修する傾向があります。現在、宮城県全体の募集定員に対してマッチ者数は毎年 60 人程度少なく、勤務医の労働環境の悪化につながっています。また、東北大学でも医学部卒業生の帰学率の低迷や医局への入局者数の減少により慢性的な人手不足となっております。

2018 年度からは新専門医制度がスタートし、初期研修中の希少疾患の症例が専門医取得の経験症例に含むことが可能となり、専門医の養成を見据えた一貫した研修システムの構築が必要です。更に東北大学は東京大学・京都大学とともに世界の有名大学と伍して戦う大学として、指定国立大学に指定され、いっそう臨床・研究・教育に力を入れていかなければなりません。そのような背景も後押しして、東北大学病院でも初期研修医を積極的に受け入れ、宮城県、更には東北地方の医療を発展させるために初期研修の強化に舵を取りました。

まず、宮城県を中心に、東北地方、北海道や関東地方にまたがる巨大な関連病院ネットワークを生かし、大学病院での初期研修期間 2 年間のうち最大 16 ヶ月をこれらの関連病院で研修が可能となる自由度の高い研修プログラムを作成いたしました。これにより、希少疾患の経験や最先端の医療、高度な救急研修など大学病院研修のメリットを残しつつ、症例数の確保や初期研修で学べきプライマリ・ケアの知識、手技の習得などに向いている市中病院研修をペアにして、大学病院研修と市中病院研修の「いいとこ取り」の研修が可能になります。このたすき掛け方式は、市中病院の給与体系にも準ずるため、給与面でも大きなメリットとなります。また、採血や中心静脈穿刺、気管

挿管などのトレーニングができる国内屈指のクリニカルスキルスラボや、豚を使った手術手技トレーニングが可能な先端医療技術トレーニングセンター、国内でも有数の図書数を有する医学部附属図書館といった設備が整っていることも東北大学病院研修のメリットです。そして、最先端の臨床をやりたい人だけでなく、地域医療に従事したい人、基礎研究をしたい人、海外留学を考えている人、開業を考えている人など様々なニーズに対応が可能です。

さらに卒後研修センターではメンター制度を導入し、専任教員だけでなく先輩研修医や各科の指導医などが初期研修医を支えることによって安心して研修に専念できる環境づくりに励んでおります。2017 年には卒後研修センター同窓会が新設され、第 1 回の同窓会には卒後研修 OB と現初期研修医、さらには学生もふくめ 70 名程度が参加し盛会でありました。この同窓会員達は診療科の共同作業のハブとなり、大学病院活性化の原動力になる重要な人材になると考えております。

2017 年のマッチングでは過去最多タイとなる 27 名がマッチしました。東北大学病院での初期研修を選択した理由としては「自由度の高いプログラム」や「たすき掛けシステム」、「指導医が豊富でアカデミックな研修ができる」といった東北大学病院ならではのメリットを挙げております。一方、2016 年度のマッチングでは東京大学は 127 人、東京医科歯科大学は 119 人など、他の国立大学病院とは大きく水をあけられています。将来的には他の旧帝大と同様、100 人程度の初期研修医を集められれば、たすき掛けによって関連市中病院の初期研修医も増えて人材交流が活発になり、より地域医療が充実するはずで。そして東北大学病院が臨床教育の要となり、かつ最先端医療実践の場としてさらに発展していくことが使命と考えております。

当院の定員は 39 名で、フルマッチには至っておりませんが 2018 年はフルマッチとなるよう、東北大学病院での研修の良さをアピールしつつ、さらに良い研修病院となるよう努力して参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

卒後研修センターではホームページの開設やフェイスブックなども行っておりますのでそちらも参照ください。

● ホームページ：<http://www.sotuken.hosp.tohoku.ac.jp/>

● Facebook：<https://www.facebook.com/kensyu.sotugo>



卒後研修センター同窓会



初期研修医

## 東北大学における医学研究者の育成

東北大学大学院医学系研究科  
副研究科長・副学部長  
附属創生応用医学研究センター  
がん医学コアセンター 細胞増殖制御分野

中山 啓子



東北大学は、建学以来の伝統である「研究第一」と「門戸開放」の理念を掲げ世界最高水準の研究・教育を創造しています。私たち医学系研究科・医学部に所属する教職員も、教育・診療を行いつつ、研究成果も次々と産み出しています。実際には、この3つは私たちの中では一体となって存在し、分けられるものではありません。私たちは、診療現場でいつも医学的な課題、解決しなければならない課題を突きつけられており、自らがその問題の解決に挑むと同時に、ともに挑戦する仲間を育てることでより効果的であり広い視野で課題に挑戦したいと思っています。

医学研究の目標は、病気の原因を探りその治療方法を開発することのように思われるかもしれません。もちろん、それも重要な目標ですが、医学医療について研究すべき問題は多岐にわたります。病気の原因を探りその治療方法を開発するのではなく、病気の原因を探り病気にかからない方法を開発するのも医学研究の目標です。いま、健康な人々にとっては、病気にかからない方法を知ることが治療法の開発よりも重要かもしれません。実際、毎日の生活の中で食事・運動などの生活習慣が、どのように健康に影響を与えるのかを正確に理解することによって、人類の健康は大きく改善してきました。例えば、塩分を控えた食事や禁煙活動などは、そのような研究から生まれたものです。一方、少子高齢化が進む日本で、効果的な医療活動を行うために最適な医師・病院の配置はどのようなものか検討するというような研究も非常に重要でしょう。高齢者の多くは慢性疾患を罹患していますが、それでも自立して楽しい生活を送ることができるような技術を開発し実装すること、そしてより優れた社会システムを提案することも医学研究者の役割です。

私自身は、1つの受精卵からどのように細胞が増殖し、多岐にわたる機能を獲得し、最終的に1つの個体として成り立つのか、に興味を持って研究を始めました。その研究の延長に、今、興味をもって取り組んでいる発がん機構の解明があります。がん細胞もまた、私たちの体を構成する細胞から産まれたものです。がん細胞は異常な増殖をする細胞から成り立っていると考えられてきました。しかし、活発な増殖をするがん細胞だけでなく、本来は個体にとって不要な細胞なので死滅すべき細胞であるのに細胞死から逃れる場合があること、そして実は正常な細胞がサーベイを怠っているから細胞死が誘導ができなくなっていることなど、がん研究は次々と新しい概念が産まれています。それらを活用して、一日もはやく予防・治療に貢献する医療

へと結びつけたいと奮闘しています。

ここまで、医学研究のほんの一部の領域を紹介しました。東北大学医学部にはもっと多岐にわたる研究領域で教員は活躍していますし、総合大学である東北大学の強みを活かして他学部の教員とともに研究を行うこともあります。私たちは、学部生の間に研究に興味を持ち研究の一端を担うことは、現在の医学の置かれている問題点を理解し、その解決に向けた道筋を知る絶好の機会であると考え、学生は、学部入学直後から「医学・医療入門」という講義などで研究に触れ、医学部2年生では基礎医学実験（選択性）、3年生では基礎修練で研究に参加します。中には MD-PhD コースに参加し医学部卒業前に医学博士を取得する学生もいます。

私たちの体のことから世界の医療のことまで、私たちの周りには様々な疑問があふれています。それに対して自ら解答を探す作業ほど好奇心をかきたてるものはありません。そしてその解答が人類の健康福祉に繋がれば、とても幸せなことです。医学部の学生・卒業生たちと興味を共有できることは、私たち教員の大きな喜びです。研究に触れてみたいと思った時は、医学教育推進センターなど、教員にご相談ください。私は、もちろん私の研究が一番面白くて魅力的だと思っています。

### ●医学教育推進センター

<http://www.meduc.med.tohoku.ac.jp/>





# 東北大学における内科専門医の育成



東北大学病院血液免疫科 / 東北大学病院内科専門医プログラム統括責任者 張替 秀郎

2018年度から新専門医制度が始まりました。とはいえ、専門医という単語にそもそもなじみがない方もいらっしゃると思いますので、その辺から話を始めたいと思います。医学部学生にとって最も重要なことは、医師国家試験に合格し医師免許を取得することです。医師免許を取得したあと、医師法により2年間の臨床研修（初期研修）を行う必要がありますが、そのあとの進路については自由であり、基本的にどの診療科を標榜することもできます。ただ、この段階では専門診療をする実力も自信もないので、自分が志望する専門領域を選んで、研修実績を積み専門医を目指します。内科の場合は内科専門医にとどまらず、さらに循環器内科、消化器内科といったスペシャルな専門医を目指す方がほとんどです。

この専門医の資格は医師免許のような国家資格ではなく、これまで各学会が認定し付与してきました。例えば内科専門医であれば、内科学会が指定する教育病院で一定の研修を行い、日本内科学会が規定する数の症例要約を提出し、試験に合格すれば内科学会が認定する専門医（認定医）が取得できるといった具合です。

2018年度からこの仕組みが変わり、日本専門医機構という第三者が専門医を認定するということになりました。これが文頭の新専門医制度です。各専門領域の専門医資格は、今後この機構が認定したプログラムを修了しなければ取得できなくなりました。東北大学病院も内科学会が提示したプログラム整備基準に沿って、「東北大学病院内科専門医プログラム」を作成し、日本専門医機構の認定を受けました。これにより、東北大学病院プログラムに登録し、プログラムに沿った研修をすれば内科専門医を取得できるということになります。

それでは、内科専門医になるまでの実際の研修はどのように変わったのでしょうか？一定の期間、幅広く内科研修を行い、経験した症例の要約を提出し、試験を受けるということに変わりはありません。一番の違いは、要約を提出するだけでなく、経験した症例をウェブで登録し、指導医のチェックを受けなければならなくなったということです。この症例の登録は、要約を書くよりもずっと分量が少なく、済むものの、登録しなければならない数がとても多く、すべての内科領域の主要な疾患を経験・登録しなければならなくなりました。

そうすると、内科専門医研修で大事なことは、たくさんの症例をたくさんの指導医のもとで経験できる病院で研修するというようになってきます。東北大学病院は120名を超える内科指導医が在籍し、すべての内科診療科に複数の

専門医がいます（下図）。症例数もダントツに多く、内科専門医研修の際に一定期間ローテーションが義務づけられている連携施設も東北・関東に及んでいます。また、それぞれの専門診療科の専門疾患の数が多いため、内科専門医だけでなく、その先の循環器内科、消化器内科といったさらにスペシャルな専門医資格も取得が可能です。さらに、東北大学病院は診療だけでなく、医学系研究科と協働して最先端の基礎研究・臨床研究を進めていますので、専門医取得から途切れることなく大学院に進学し医学博士を取得することができます。

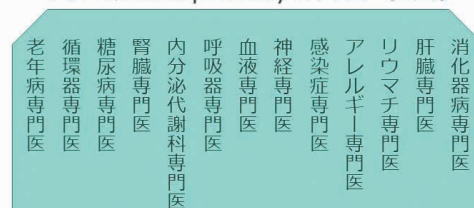
東北大学病院は高度な専門医を育成するだけでなく、フィジシャンサイエンティストとしての意識と素養を有する医師を育てることを目指しています。そして、実際にその環境が提供できる数少ない医育・医療機関であることを自負しています。

## 東北大学病院の内科指導医数と症例数



## 新内科専門医制度

内科系Subspecialty専門医（2階）



内科専門研修（3年）

初期臨床研修（2年）

内科専門医（1階）

## 外科専門医を目指すなら 「東北大学病院外科専門研修プログラム」へ

東北大学病院外科専門研修プログラム統括責任者 海野 倫明



新専門医制度に対応した「東北大学病院外科専門研修プログラム」は、平成30年度より開始されました。東北大学病院の外科医教育は、三者協議会・長陵協議会という歴史と伝統に裏打ちされたシステムを源流とし、外科の実践と研究がバランスよく学べる優れたシステムですので、皆様にご紹介したいと思います。

三者協議会というのは昭和43年に設立された会で、「三者」というのは、学生会、研修病院会、大学（教授会＋教室委員会）の3つを表しています。その発足の理念は、「現行の法律とは無関係に、卒後教育はいかにあるべきかの問題につき、現場で直接診療に従事する市中病院の先生方に意見を聞き、東北大学としての望ましい研修形態を確立していきたい。」（原文のまま）というものでした。当時は、多くの大学が卒業生を半ば強制的に自大学病院に残していましたが、東北大学は卒業生自らが市中病院を選択する、という実に先見的なシステムを約50年前から開始したことになります。この結果、市中病院との相互チェックや連携などから両者間の緊張感と風通しの良さにつながり、その一方で東北地方の病院への人材確保と優れた実地臨床研修へと結実して行きました。これはまさに現行の卒後臨床研修の理念に通じるところがあり、東北大学は半世紀前から時代の先取りをしていた訳です。平成5年には「長陵協議会」と名称が変更になりましたが、現在はNPO法人となり、市中病院と東北大学を繋ぐ組織として存続しています。

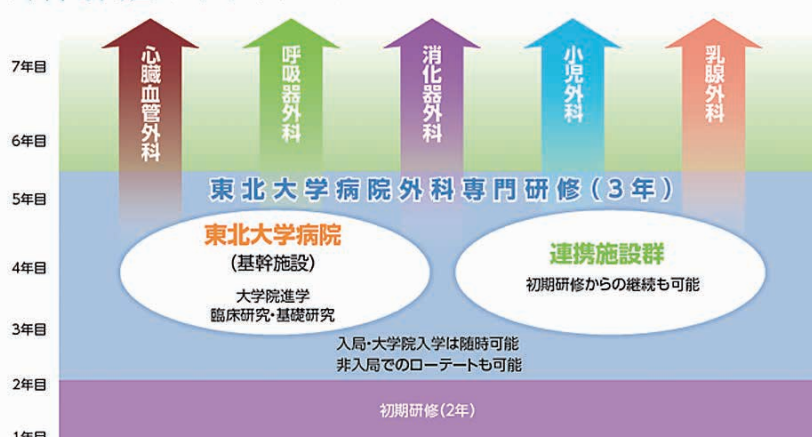
このシステムの大変優れている点は、若手に多くの手術を執刀させつつ、地域医療を守ってきた点にあります。この伝統を引き継ぎ、東北大学病院外科専門研修プログラムは、これまで多くの外科医を育成してきた64の関連病院群と、基幹施設としての東北大学病院からなるプログラムといたしました。東北大学病院外科専門研修プログラムに入っただけであれば、2年間の初期臨床研修に引き続き、同じ病院で外科専門医研修をスタートさせることが可能です。そこで多くの手術を経験した後に、最後の1年あるいは半年は東北大学病院に勤務し、足りない領域の手術を経験し、学会発表や論文発表の仕方を学びつつ、その

後の消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、甲状腺外科、などの2階建てにあたるサブスペシャリティ専門医取得を目指していただきたいと思います。また、早くからサブスペシャリティを決めて研修したいという方のために、最初の1年次4月から大学病院に勤務し、その後市中病院を選択するという「基幹施設研修先行コース」や、「宮城県修学資金貸与者コース」、というものも設けてありますので、皆さんの希望に柔軟に応えることが可能です。

東北大学病院外科専門研修プログラムはこのように様々な要望に答えつつ、3年間、すなわち卒後5年で外科専門医を取得することができるプログラムであり、全員が外科専門医を取得できると考えています。ただし、外科専門医取得は、奥深い外科学の入り口に立った、というだけで、外科医としての本当の実力が評価されるのは、その後になります。外科専門医を取得した後に、医学（サイエンス）と診療（アート）の両者に真摯に向かいあい、研究により多くの病める人々を救うことができるか、その結果外科学の発展にどのくらい寄与できるかが、重要です。東北大学は指定国立大学として日本有数の大学院があり、そこで臨床研究・基礎研究を学んだ指導的立場の外科医を多く輩出してきました。外科医の第一歩として、歴史と伝統ある東北大学外科専門研修プログラムを選択していただき、さらに大学院進学を考えて頂きたいと思います。

外科学の発展を目指して私達と一緒に臨床と研究をしましょう！

### 外科専門医のキャリアパス





## 平成 29 年度医学部医学科白衣式報告書

医学部医学科長 石井 直人

平成 30 年 3 月 12 日（月）、平成 29 年度医学部医学科白衣式が医学部開設百周年記念ホールー星陵オーディトリウムで開催されました。

五十嵐医学部長を初め、教授、教育担当主任が列席の上、来賓として東北大学病院長、看護部長、診療技術部長、医学部学生後援会長をお招きし、新 5 年次学生保護者にも多数参観していただきました。



白衣式では、医学部長より新 5 年次学生代表へ大学のロゴマーク入りの白衣が授与され、次いで Student Doctor 認定証および病院カードが授与されました。続いて各教授より新 5 年生全員に白衣が授与されました。

学生代表からは、医学生としての自覚と臨床実習に向けた心構えについて決意表明が

なされました。

今年度も荘厳な雰囲気の中、臨床実習開始の節目としてふさわしい式典となりました。

最後に関係者を代表して、医学部学生後援会からのご援助に心から感謝申し上げます。



## 平成 30 年度医学部保健学科 看護学専攻 3 年生のウェアセレモニー

平成 30 年 7 月 20 日（金）看護学専攻 3 年生のウェアセレモニーが開催されました。

五十嵐和彦医学部長と菅原明保健学科長、鈴木由美看護部長からの激励の挨拶の後、菅原明保健学科長から、

これから臨床実習へと進む学生一人一人に、東北大学医学部のロゴマーク記念バッジが授与され、最後に代表学生の大友さんが、力強く決意表明を行いました。





## 医学部医学科謝恩会の報告

平成 29 年度医学科謝恩会代表 熊谷 美有紀

平成 30 年 3 月 27 日（火）に、平成 29 年度医学部医学科卒業生は教授をはじめとする大学の先生・職員、家族といった多くの皆様の祝福を受け、晴れて東北大学を卒業いたしました。卒業式の後、江陽グランドホテルで謝恩会を開催させていただき、お世話になりました方々への感謝を形にする機会といたしました。

当日は多くの先生、保護者の皆様方にご出席いただき、大変な賑わいとなりました。皆様方、お忙しい中ご出席いただきましたことを心より御礼申し上げます。



会の冒頭では、学位記伝達式に続いて五十嵐和彦医学部長から一言頂戴し、続いて八重樫伸生病院長の乾杯のご発声で謝恩会が始まりました。会の中ほどでは、音楽グループ小籠包として船山由希乃・星なつみ・橋田典子・粕壁幸恵の四名による、演奏と映像演出によるステージの披露があり、会場は大変盛り上がりしました。

最後に、里見進総長からは「みんなどうか自分の幸せ



も大事にしてほしい、幸せになってください」というお言葉をいただきました。私たち卒業生一人一人が新たな門出を迎えた今、多くの人の幸せを願い努力する初心を忘れず、各々が自らの人生を生きていくのだということを実感いたしました。退官を目前に控えた中、卒業生に暖かいメッセージをくださった総長に深く感謝いたします。

総長から一本締めをいただき、会は終わりとなりました。4 月からは全国各地に飛び立ち、医師としての第一歩を踏み出します。国の未来を見据え、世界の礎となる存在になるべく研鑽に励む所存です。

最後になりましたが、今回の謝恩会をはじめ、在学期間の生活を厚くご支援いただきました東北大学医学部学生後援会様に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。





## 医学部保健学科謝恩会の報告

平成 29 年度医学部保健学科謝恩会

幹事代表 鎌田 彩希

去る平成 30 年 3 月 27 日（火）に東北大学学位授与式が仙台市体育館にて行われ、その後 19 時より、ホテルメトロポリタン仙台にて平成 29 年度東北大学医学部保健学科謝恩会を開催致しました。会を開催するにあたり、様々な方にご援助を頂きましたこと、また、先生方をはじめ 4 年間でお世話になりました多くの皆様のご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

はじめに医学部長の五十嵐和彦先生、保健学科長の菅原明先生よりご祝辞と乾杯の挨拶を賜り、会が始まりました。保健学科三専攻の学生は、講義や実習、卒業研究など様々な場面でお世話になった先生方や施設の方々に感謝の気持ちを伝え、思い出話に花を咲かせておりました。また、ビンゴ大会も行われ、会場は大変盛り上がり、楽しんでいただけたように見受けられました。そして最後に今年度で退職される石橋忠司先生に花束贈呈を行い、これまでの感謝の気持ちを伝えることができました。

これからはそれぞれの道に進んでいくことになりますが、東北大学で学んだことを忘れずに、またお世話になった多くの方々への感謝の気持ちを胸に、今後も日々精進していきたいと思っています。

末文になりましたが、快くご協力いただきました医学部学生後援会様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



## 医学部学生後援会 (PTA) 主催の入学祝賀会を開催いたしました。

4 月 4 日（水）午前中は、東北大学全体の入学式が行われ、午後に医学部学生後援会（PTA）主催の「入学祝賀会」が仙台市青葉区の「江陽グランドホテル」で本年 4 月に入学された新入生とその保護者の皆様を対象といたしまして開催いたしました。



当日は、天候に恵まれ、約 550 名の参加者により大盛況の下で実施することができました。

最初に、五十嵐和彦医学部長からの挨拶の後、阿部高明学生後援会（PTA）会長からの挨拶がありました。

本年も会場内を医学部と保健学科に分け、最初に共通する事項を説明後、各学科長による学科の紹介と歓

迎のスピーチがあり、各学科教授によるキャリアパス等の企画もありました。

続いて、福地満正幹事による

乾杯の発声があり、祝賀会は賑々しく始まり、初対面の新入生同士・保護者・大学関係者・在校生との顔合わせ等により、楽しい歓談の場となり、交流もできたと思われま

す。また、ご参加いただきました保護者や新入生の皆様から、温かな言葉をいただくことができ、好評を得た学生後援会の事業ではないかと思っております。



今後とも、会員の皆様の温かい御支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

後援会事務局（PTA）

## 平成 30 年度医学部新入生オリエンテーションを開催しました

医学部医学科長 石井 直人  
医学部保健学科長 菅原 明

4月5日(木)に医学部新入生オリエンテーションを実施いたしました。

○**医学科**では、五十嵐医学部長の挨拶の後、教育課程や学生生活等についての説明を行い、昼食時には、アドバイザー教授と食事を摂りながら懇談しました。新入生を4～5名の小グループに分け、アドバイザー教授の研究室で昼食を摂りながら、和やかな雰囲気での懇談することができました。

午後からは小児感染症・B型肝炎抗原抗体検査のための採血、学生歌の歌唱指導、新入生クラス写真撮影などを実施しました。最後に、在校生によるサークル紹介を行い、教員・在校生全体で新入生を迎え入れることができました。



○**保健学科**では、五十嵐医学部長及び菅原学科長の挨拶の後、午前中は授業の取り方等学科全体のオリエンテーションに引き続き、看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻の3専攻に分かれて、専攻オリエンテーションを行いました。

その後はチューター教員と新入生との昼食懇談会を実施しました。4年間の大学生活の中で、勉学のみならず様々な面で相談に乗ってくれるのがチューター教員です。初めは緊張した面持ちの新入生も、昼食をはさんで先生方や同級生と親しく話すことができ、順調な大学生活が踏み出せたようです。午後の情報セキュリティ講習会や、感染等の抗原抗体検査のための採血と盛りだくさんの一日でしたが、無事オリエンテーションを終了することができました。



例年、医学部学生後援会から昼食代等の必要経費のご援助をいただき、本当にありがとうございます。お陰様をもちまして有意義な新入生オリエンテーションを実施することができました。

## 編集後記

今春も、夢と希望に満ち溢れた新入生の皆様の入学を心からお慶び申し上げ、入学後の学生生活に係わる支援の一端を担えさせていただければ幸いです。

本学生後援会は、学生の支援・助成活動(入学祝賀会開催、新入生オリエンテーション及びオープンキャンパスへの助成、学生用図書整備・充実、卒業謝恩会への助成、学生後援会会報の発行等々)などに積極的に取り組み、その活動の様子を年2回発行の学生後援会会報により会員(保護者)の皆様方にお知らせしております。

また、学生、保護者そして本学部教職員との交流にも努めてまいりますので、更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学生後援会事務局 (PTA)

東北大学医学系研究科では、ホームページの開設などのSNSの発信も行っております。プレスリリースやニュース、イベント情報など掲載しております。どうぞ登録ください。

- 東北大学医学系研究科 HP  
<http://www.med.tohoku.ac.jp/>
- 東北大学医学系研究科 Facebook  
[https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Medicine/?ref=aymt\\_homepage\\_panel](https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Medicine/?ref=aymt_homepage_panel)
- 東北大学医学系研究科 Twitter  
[https://twitter.com/tohoku\\_univ\\_med](https://twitter.com/tohoku_univ_med)



### 東北大学医学部学生後援会(PTA)事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1  
TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp  
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>